

とどまることのない人件費削減

失われていく「安全とサービス」

JR九州では567駅中289駅が無人駅です。無人駅は年々増加しています。香椎線のほぼ全駅無人化、新幹線駅のホーム無人化が進行し、JR九州の強みであるはずの「安全とサービス」が年々脅かされています。

香椎線の全駅無人化について、**アンサーシステム**というものが新たにできました。このシステムにより車いす対応については予約制になり列車の運行状況について駅員への対面ではなくインターホンでの対応になるが対応時間が延長されサービス向上につながるという話を耳にします。しかし、本当にサービスが向上したのでしょうか？列車内で、お客様の体調が急に悪くなったとき、人身事故や機器トラブルにより列車の遅延が発生した場合に、きめ細かな対応が出来ているのでしょうか？

新幹線駅のホーム無人化については、JR九州のみです。

無人駅では、ホームドア、放送設備等の安全対策は十分になされていきますか？**人員を減らす前にやるべきことがあるのではないのでしょうか？**

安全は創るものではないか？

皆さんは安全創造運動をご存じだと思います。安全は創るもの「素晴らしい言葉です。しかし、その安全を創るためには何が必要でしょうか？人と安全設備が何より必要なのではないのでしょうか？会社の利益のためには人件費を削るのが一番手っ取り早いのかもありません。しかし、その結果JR九州の本質的なサービスである「安全」が脅かされてしまつては本末転倒です。やはり、**鉄道会社として費用をかけるべきところにはかけなければいけません。**

乗務員としての「プライド」安全を守るための「プロ意識」、働く人員そのものが減ると、このような精神論は重くなるばかりです。**安全を創る「ためには、それに見合った人員や設備が不可欠ではないのでしょうか？」**

私たちが声を上げなければ、合理化は加速する一方です…



地域活性化のためにも、駅員は必要ではないのでしょうか？



第 63 号

2017年 1月15日

発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

JR 092-2075

NTT092-483-1515